



特別寄稿

高機能マルチ検査システムの有用性 「コスト重視」から「AI活用」まで柔軟にステップアップが可能

文◎古田俊治

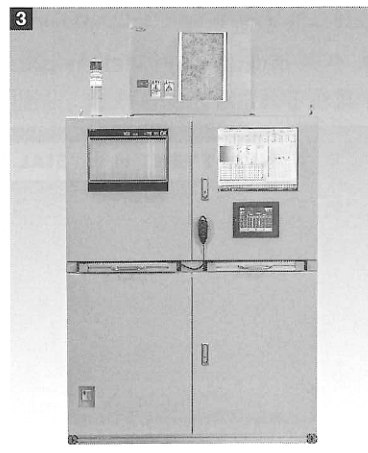
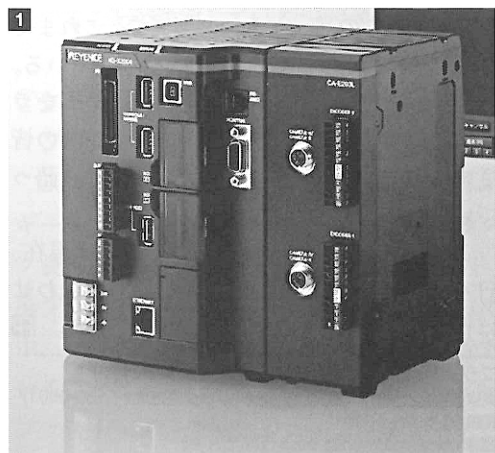
フロンティアシステム 取締役社長

人が“価値ある仕事”へシフトするために

新型コロナウイルスの影響による働き方にも、テレワークにより仕事のあり方などが問われている。現在では、コロナ禍であっても、工場における生産現場ではテレワークのような形態の仕事をしていくことはできない。生産効率を上げていながらも、人と人との接触を少なくしていく過程で工場内の仕事のあり方や考え方が変わっていきこうとしている。

品質管理においては、省力化機器として品質安定と品質保証、生産能力向上の観点から検査装置は必要不可欠な存在と変わってきた。非常事態宣

言のインパクトは大きく、生産工場で使用される検査装置は非接触検査であることもあり、人が目視で検査するよりも安心して安定した検査ができる。検査装置は、とにかく人の目と比較されることが多い。しかし、人の目と機械の目の違いは明白である。人は官能検査の判断が可能となるために習熟した経験で判定している。判定基準も人によってあいまであり、個人差も大きい。人による品質の検査は優秀であるが、常にヒューマンエラーが発生する確率も考えなくてはならない。目視検査を最小限にすることにより、人は価値のある仕事へシフトすることで、品質のパラッキの下限を確実に押し上げ品質の向上を計ることが可能となる。



1 XG-X2800本体 2 XGXC検査装置用制御盤 3 XGXM検査装置用制御盤

